

国立大学法人名古屋工業大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

《本学の歴史と環境、社会の変化》

名古屋工業大学は、20 世紀初頭の名古屋高等工業学校創立以来、屈指の工科系単科大学として発展し、中京地域を中心に産業基盤を築き上げ、科学・技術立国の側面から我が国の繁栄に貢献してきた。

しかし、21 世紀に入り我が国を取り巻く状況の大きな変化を踏まえ、国立大学はその使命を改めて認識した上で、それぞれの機能強化に速やかに取り組むことが求められた。

また、本学の位置する中京地域の産業界は、新興国の発展に伴う世界市場の拡大により、イノベーティブな開発・製造を行い世界展開しようとしており、国際競争力の維持向上が不可欠となっている。

《第Ⅱ期までの取組、実績》

このような我が国の国立大学を取り巻く環境や経済、社会の変化に対応しつつ、当地域とともに培ってきた産業技術と産業人材の揺籃機能を一層強化し、当地域産業界を支点としたイノベーション・レバレッジによって我が国の強い産業、特に、世界に冠たる「ものづくり産業」を支え、次代の発展を導くため、本学は、果たすべき役割・使命を踏まえて、「中京地域の産業界との融合」を基本方針として、地域産業界の求める人材養成に向けた教育組織改革を中心とする機能強化に取り組むこととした。

具体的には、人材養成において、平成 28 年度から、学部の学科、大学院の専攻の再編成を行うとともに、学部及び大学院博士前期課程を通じた 6 年一貫による「創造工学教育課程」を設置する諸準備を完了した。これに必要なフロンティア研究院による研究ユニット招致のための国際連携強化、産業界からの教員採用を推進するとともに、年俸制、混合給与制度の導入も完了し、適用教員の拡大に努めているところである。さらに、創造工学教育推進センターにおいては、産業界からの要請の恒常的な把握・反映、新教育課程の P D C A サイクルの確立に向け、検討を行っているところである。また、研究面においては、U R A オフィスの活動強化により、研究力強化のための戦略的・組織的な取組を充実しているところである。

《第Ⅲ期の基本方針》

このような第Ⅱ期中期目標期間における取組を着実に実施・定着させるとともに、「中京地域産業界との融合」を基本方針とした機能強化を更に充実するため、特に、以下の事項に重点的に取り組む。

1. 平成 28 年度から実施する学部の学科、大学院の専攻の再編成及び学部・大学院博士前期課程を通じた 6 年一貫による「創造工学教育課程」に関し、計画的な教育課程の整

備等、円滑かつ着実な実現に取り組む。

2. 外国人、女性、若手等の多様な教員、留学生、社会人、女性等の多様な学生を充実し、ダイバーシティ環境の構築に取り組む。
3. 研究力強化戦略の下、世界トップレベルの先端的研究を組織的・横断的並びに国際的に推進する。
4. 社会・産業界が求めるイノベーション創出に繋がる実践的研究を一層推進する。
5. 社会の変化に速やかに対応するため、学長のリーダーシップの下、業務全般の改善及び効率化等を推進する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

中期目標の期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの 6 年間とする。

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科等を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ①学部・大学院の再編成及び学部・大学院博士前期課程を通じた 6 年一貫教育により、地域の産業界が求める高度かつグローバルな技術者等の専門職業人を育成するとともに、研究開発能力を有する先導的な人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ①高度かつグローバルな技術者等の専門職業人の育成と研究能力を有する先導的人材の育成のため、学内外から戦略的に人材を配置し、実施体制を整備する。

(3) 学生への支援に関する目標

- ①学内の各支援組織が連携し、修学支援、生活支援の充実を図る。

(4) 入学者選抜の改善に関する目標

- ①能力・適性等を評価する多様な入学者選抜方法を導入し、アドミッション・ポリシーに基づく人材を受け入れる。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ①ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として世界最高水準の研究を目指す。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ①世界最高水準を目指した研究活動を支える高度かつダイバーシティのある研究組織・研究実施システムを整備する。
- ②学外機関と連携して大型研究設備の共同利用を推進し、研究水準の更なる向上を促進するとともに本学のイノベーションハブ機能強化を図る。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ①ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として持続的な地域の発展と産業振興に最大限貢献する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- ①海外の有力大学・研究機関と連携して世界レベルの先端的研究を推進し、本学の国際的プレゼンスを高める。
- ②海外の大学との教育連携を図りながら留学生の受入れ、日本人学生の派遣を促進し、国際的に通用する人材を育成する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ①学長のリーダーシップの下、「大学の基本的な目標」に基づく大学運営を行う。
- ②大学の経営戦略に基づく資源配分を行う。
- ③自律的な法人運営を行うため、学外の意見を能動的に取り入れ、大学運営に反映・活用する。
- ④教育研究の活性化を図り、効果的な法人運営を進める観点から、多様な人材の確保と適切な評価に応じた処遇を行う。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ①地域産業界の求める人材の養成に向けた教育組織改革を完成させる。
- ②グローバル化に対応する新たなイノベーション・リーダーの育成を図るため、教員組織の見直しを行う。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ①効率的な法人運営のため、事務業務の不断の見直しを行い、事務の効率化・合理化を図る。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ①社会・産業界が求めるイノベーション創出等に繋がる実践的研究の推進により、外部研究資金の獲得を目指す。
- ②本学卒業生をはじめ地域産業界との連携を強化することにより、寄附金等の増加を図る。

2 経費の抑制に関する目標

- ①既の実施している経費削減の取組を検証しつつ、さらなる経費の抑制を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ①大学が保有する資産の効果的・有効的な運用を組織的に行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ①客観性のある指標により自己点検・評価を実施し、教育研究等の改善につなげる。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ①本学の教育研究活動に関する情報を国内外に広く発信する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ①安全で環境に配慮した魅力あふれるキャンパスづくりを目指す。

2 安全管理に関する目標

- ①安全管理体制の強化を図るとともに、情報セキュリティを含めた適切な安全管理を行う。
- ②大規模災害に備え、構成員の安全対策を推進する。

3 法令遵守等に関する目標

- ①法令を遵守し、社会に信頼される大学を目指す。

別表（学部，研究科等）

学部	工学部
研究科	工学研究科